



♪CONTENTS♪

- 藤田木材へ行ってきました
- 2015年度百年の会総会
- 百年サロン・木のスピーカー報告
- 北山杉本仕込み
- 北山杉・里山コンサートの案内
- もくもくフェスタの案内
- 連載（森林・林業小話 22）
- 編集後記

No.34 (2015.9.29 発行)

森の人インタビュー

第12回

第12回は京都市内で製材加工を行っている「株式会社藤田木材」代表取締役の藤田剛士さんにお話を伺いました。

藤田木材では2014年7月から地場工務店と連携して製材品の燻煙熱処理事業を始められました。

燻煙熱処理とは、木材の端材を燃料にし、その熱と煙で製材品を燻すことによって乾燥を促進させる方法で、虫がつかない上に、割れも起きないといった特徴があるそうです。また、燻煙処理をした木材は油気が残っているため刃物切れが良いというメリットもあるとのことでした。

2014年夏にこの事業を開始されてからは製材に加えて乾燥・加工の設備が整い、自社で原木購入から製品販売まですべてをできるようになったそうです。そのため販売先も増えています。そんな中、藤田さんは2つのことに気を配られています。1つは毎朝欠かさず全員でラジオ体操をすること。重い荷物を持つ従業員は腰を痛めてしまいがち。それを気遣ってしっかり体を動かす時間をつくることで、負担をなくそうと考えていらっしゃるようです。もう1つは毎朝仕事をする前に藤田さんが社員全員の前で挨拶し、一日の流れを説明すること。会社で今どんなことがなされているのかを全員で共有することで、会社全体をまとめようと工夫されています。

社員一人一人のことを大切に考えておられる藤田さんですが、その原点にはたくさんの人との出会いがありました。元々木材業界に入ったきっかけは藤田木材の代表をされていた父親だそうです。けれどいきなりその会社で働くようになったわけではありません。大学卒業後、滋賀県内の材木店に3年間住み込み、そこで原木の仕入れ方、銘木の見方、工務店との付き合いなど様々な仕事を勉強されました。また、社長のご自宅で寝起きを共にし、材木だけでなく人生を学び、

その経験が今につながっているとのことでした。

その後、25歳で父親の会社に入りましたが、10年後にお亡くなりになってしまい、藤田さんは35歳の若さで社長に就任されました。とはいえ、当時は全然仕事から苦勞されたそうです。そんな時に助けてくれたのがそれまで働いていた社員さんたちでした。また、昔からのお客さんは社長が代わってもこれまでのつながりを大切にし、製品を買い続けてくれたそうです。景気が悪くなっている中で製材を諦めず今まで続けられたのは、「社員のみなさんとお客さんに恵まれていたからだ」とお話しされていました。

そんな藤田さんの今後の夢は、これまでに会った多くの方との関わりに感謝しながら今の仕事を長く続けていくことだといいます。

インタビューで藤田さんは何度も「人」が大切だと語って下さいました。材木店の社長さんとは「たまたまある人の紹介があったから」知り合えたとのことですが、そんな偶然出会った方がご自身の「恩人」になるなんて、人のご縁はとても不思議なものだなと感じました。私は来年春から社会人になります。不安も大きいですが、学生時代のたくさんの素敵な出会いに感謝し、これからも一歩ずつ成長していきたいと思えます。(豊濱)



株式会社藤田木材 代表取締役 藤田剛士さん

★今年度の総会を開催しました★



総会の講演を聞いている様子

5月17日に、ひと・まち交流館で当会の本年度の総会が開かれ、きょうとNPOセンターの内田香奈さんを招いた記念講演では、「NPOの現状と可能性」をテーマに話して下さいました。

NPOの概略的な情報として、法人認証数、財政規模、収入構造などに続いて、小規模多機能自治、他団体との連携・協働といった多彩な話題についての説明とともに、京都府内のNPOでの具体的な取り組みの実例紹介もあって、とても参考になりました。

講演後、総会で昨年度の事業の振り返りと、本年度の計画などを話し合い、移動してからの昼ごはん中にもいろんな話をしました。昨年は何度か林業に関係のある現場に見学へ行く機会を設けることができましたので、今年もなるべく同様の取り組みを進めていきたいところです。いずれにしても、これまで会に関わって下さった方々との関係性を大切にしながら、当会ならではの活動を展開していこうということで決意を新たにしました。(野瀬)

※百年サロンを行いました※

今年も、昨年と同様に林業に関する学習の場として百年サロンを企画、8月までに3回開催しました。

6月24日は京都市森林組合に勤務しておられる西田顕識さんに「京都市における森林施業プランナーについて」というテーマで話をさせていただきました。森林組合や森林施業プランナーに関する基本的な情報から丁寧に説明して下さいのおかげで、利用間伐を実施するまでの流れとして京都市森林組合ではどのような体制を取っているかイメージできました。7月22日は、株式会社八木木材市場の谷口さんを招いて、これまでの林業・木材業の関わり、林業の推移と現状などをテーマに話をさせていただきました。林業への思い入れの強さに感心するとともに、確固たる信念をもって事業に取り組んでおられる姿に今後の展望を見出す上で考える



足立さんと菊谷さんによる制度の説明

べきことがいくつもあることを再認識させられました。

8月19日は、京都府森林技術センターの足立さんと菊谷さんを招いて、これまでの森林総合監理士(フォレスタ)について森林・林業の現状認識などとともに説明して下さいました。制度運用が始まって時間がそれほど経過していないこともあり、具体的な業務内容や地域の林業関係者とのかわり方など模索段階にあるようです。とはいえ、地域の森林・林業の牽引者(リーダー)的な役割を期待されていることはよくわかりました。(野瀬)

◇木のスピーカーを見てきました◇

7月5日に、ユニークな木製のスピーカーを作っておられる山の加工場ネットワーク代表・横濱さん(三重県松阪市・御城番屋敷)のところへ見学に行ってきました。

工房のある御城番屋敷は、松阪城にすぐ駆けつけられる場所にあり、今も平屋の棟が続いていて国の重要文化財に指定されています。スピーカーは、『音楽を奏でる苗木』と呼ばれ、種子から双葉が発芽したようなデザインになっています。不思議なことに、音楽プレーヤーとつないだら、薄板部分全体から音が鳴ります。下の写真の後ろにある板も全体がスピーカーで、同時に音を出してもぶつかり合うことはありません。(野瀬)



複数の種類がある木のスピーカー

北山杉本仕込みの見学会を行いました

8月29日(土)、京都市北区中川地区にて、北山林業の秘技「本仕込み」見学会を行いました。晴れ空のもと本仕込みにあたってくださいしたのは、尾島組のみなさん。現在、世界で唯一本仕込みを行える組です。メンバーの方の故障により、今回は簡略版の本仕込みが実施されました。

まずは、尾島組の親方から、本仕込みについてレクチャーして頂き、次いで実演。立木の上部に横に置かれた棒に、北山杉が一本一本伐られ、立てかけられていきます。「テギ」と呼ばれる短い棒を幹にくくりつけて足場とし、職人さんたちが器用に登っていきます。棒近くまで登ると、そこから皮をむきつつテギを片付け、下りていきます。参加者も、手の届く範囲の皮むき作業に参加。樹皮と材部の間に水分が多く、力を入れなくても専用の道具で簡単にむけます。材表面はつるつるしており、水分も多いのですが、樹皮の材側ともでこぼこしていました。最後は丸太を菩提の滝砂で磨き、体験終了。

本仕込みをした丸太はそれ以外の丸太より硬く、月日がたつにつれ、黄金色に変化していきま



本仕込みのデモンストレーションをしている様子

す。この北山丸太の伝統技術をどうか持続させたい、という強い思いを持つ職人さんたちは、参加者に熱心に林業の大切さを伝えておられました。個人的には、「職人の怪我は治るけど、木に傷が付いたら一生元に戻らない」という言葉がとても印象的でした。自分が怪我をすることよりも、木が無傷でお嫁にいくことを考える方々がおられる北山林業の奥深さと、木という生き物の生命力を感じた一日でした。(内海)

今年も北山杉・里山コンサート(10月18日)を開催します。

毎年の秋の恒例行事になった北山杉・里山コンサートの3回目となる今年はジプシー・スイング・ジャズを楽しんでいただきます。

ジプシーの伝統音楽とジャズが融合したフランス生まれの軽快な音楽「ジプシー・ジャズ」。1930年代にフランスで生まれたと言われる軽快な音楽「ジプシー・ジャズ」。軽快なリズムが心地よい音楽です。木立の中で聞いたら、どなたもきっと楽しんでいただけたと思います。

日本におけるジプシー・ジャズの第一人者のスペシャルトリオです。

高橋誠・ヴァイオリン

山本佳史・マカフェリギター

川瀬眞司・マカフェリギター

◎日時：10月18日 13:30 受付 14:00 開演

◎場所：京都市右京区弓槻町 北山杉林

※雨天時は北山杉の里総合センター

◎参加費：1,000円 JR二条駅からマイクロバスを運行します。バス代：1,000円(別料金)

◎申し込み(氏名と連絡先を教えてください)：

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



昨年のコンサートの様子

今年も「京都丹州もくもくフェスタ」(10月10日)が開催されます

丹州木材市場(綾部市)の「京都丹州もくもくフェスタ」。大好評につき、10月10日(土)に第3回が開催されます。大迫力の木材セリ市を見学いただけるほか、木工ワークショップやアウトドアスポーツ体験など、ご家族で楽しんでいただけるメニューが盛りだくさんです。もちろん、美味しいものゾーンも充実! 今年は「ジビエ料理コーナー」が新設されます。一流シェフが提供する鹿肉料理の試食(先着限定数)もありますよ。昨年大人気だった「京都そまびと選手権」も継続。丸太の速切り競争や積み木競争に親子で出場してみませんか?



昨年の丸太の早切競争の様子

❖連載❖ (森林・林業小話 22)

木材は燃料にどのくらい使われている?

これまでの話題はすべて「物資」としての木材に着目してきましたが、世界的にみると未だに燃料利用の方が上回っています。国連食糧農業機関(FAO)の統計によると、世界全体(2014年)では木炭生産量約5,095万トン、木質燃料生産量約18億6,188万立方メートルです。この数値は、同じ時点の国内の木炭、薪生産量のそれぞれ約1万1千トン、8万5千立方メートルと比べていかに大きいか想像できると思います。炊事や暖房に木材を使っている国や地域がまだまだ多く、建築用や紙

用の木材生産量を越えるまでには至っていません。世界的にみると森林の面積や蓄積が減っているところがあり、農地などへの転換が最も大きい原因だと推察されますが、燃料用の分も過小評価できません。一方、木質燃料は化石燃料とは違って再生可能なので、木炭や薪の生産量が極端に減ってしまうのも問題です。将来世代のためにも化石燃料をなるべく節約しつつ、森林資源を枯渇させないバランスの取れた利用策が求められています。<野瀬>

京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO 法人京都・森と住まい百年の会をご紹介ください。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

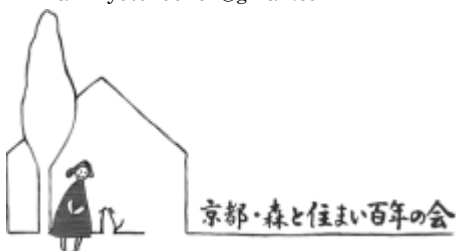
ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



編集後記

今号も事務局の野瀬が編集作業を担当しています。普段からの活動を大切にしたいと思っています。

